



2017年8月 第15巻第8号

かく語りき—聖人の言葉

「我が子よ、心配は要りません。世俗でのこれらの結び付きは一時的なものです。今日はこれらこそ最も大切なものだと思えても、明日は消えてなくなります。神との結び付きこそが本物です。」

(シュリー・サーラダー・デーヴィー)

「今生は来世への序曲だ。より高い人生へと向かう、短期間の巡礼である。」

(ザラスシュトラ)

今月の目次

- かく語りき—聖人の言葉
- 2017年9～10月の予定
- 2017年6月の逗子例会 聖ゴータマ・ブッダ（釈尊）生誕祝賀会
講話「お釈迦様の教え」（要約）
佐藤堅正師
- 2017年夏期戸外リトリートの報告
「奥琵琶湖と比叡山にて」
本田厚美さん寄稿

- 2017年夏期戸外リトリート スワームー・メーダサーナンダによる講話
「価値ある人生のための自己の気づきと実践」
- スワームー・アートマスターナンダジー、ご逝去
- スワームー・スマーラーナーナンダジー、第16代プレジデントに選出される
- 忘れられない物語
- 今月の思想

今月の予定

2017年9～10月の予定

- 9～10月の生誕日
スワームー・アベダーナンダ 9月14日（木）
スワームー・アカンダーナンダ 9月20日（水）
- 9～10月の協会の行事

9月のスケジュール

※スワミー・メーダサーナンダジー
(マハーラージ) は、9月13日～10月14日に訪印するため、約1カ月間協会を不在にします。

9月2日(土) 10:00～12:00

東京・インド大使館例会

講義：『バガヴァッド・ギター』(無料)

場所：インド大使館 03-3262-2391

お申込み・お問合せ

<http://www.gita-embassy.com/>お問合せ/

※入館・受講するには、大使館発行のIDカードが必要です。詳細は協会ウェブサイトのページ左側にあるメニューから「インド大使館ID」をご覧ください。

※免許証など写真つきの身分証を必ずお持ちください。

※後期IDカードを申請した方は、大使館でカードを受け取れます。受け取る方法は、上述のウェブサイトのページをご覧ください。

9月 毎日曜日 14:00～15:30

ハタ・ヨーガ・クラス

場所：逗子本部別館

お問合せ：羽成淳 (はなり すなお)

080-6702-2308

体験レッスンもできます。

予定は変更されることもありますので、日程は直接お問合せください。

専用ウェブサイトをご覧ください。

<http://zushi-hatayoga.jimdo.com/>

9月9日(土) 10:00～12:00

『ウパニシャド』 スタディークラス

講義：ウパニシャド

※場所：新橋レンガ通りホール

9月22日(金)

ナラ・ナーラーヤナ 現地でのお食事配布など。

お問い合わせ：佐藤 090-6544-9304

9月23日(土・祝)～24(日)

ナマステ・インディア

(東京・代々木公園)

日本ヴェーダータ協会は「ガンガーCDショップ」という店名で出店し、書籍、CD他、多数の品物を特別価格で出品の予定です。

参考

<http://www.indofestival.com/index.html>

10月のスケジュール

10月 毎日曜日 14:00～15:30

ハタ・ヨーガ・クラス

場所：逗子本部別館

お問い合わせ：羽成淳（はなり すなお）

080-6702-2308

体験レッスンもできます。

予定は変更されることもありますので、日程は直接お問い合わせください。

専用ウェブサイトをご覧ください。

専用ウェブサイトをご覧ください。

<http://zushi-hatayoga.jimdo.com/>

10月15日（日） 10:30～16:30

逗子例会

場所：逗子本部本館

午前：講話 テーマ「母なる神様」

午後：聖句詠唱・聖典の輪読・質疑応答

10月19日（木） 19:00～21:30

カーリー・プージャー

場所：逗子本部別館

19:00 礼拝・アーラティ・花の礼拝

20:00 火の儀式（護摩）

21:00 夕食（プラサード）

お問い合わせ：協会 046-873-0428

どなたでも参加できます。皆様のお越しを心からお待ちしております。

10月24日（火） 14:00～16:00（予定）

火曜勉強会（賛歌と『ラーマクリシュナの福音』の勉強会）

場所：逗子本部本館

お申込み・お問合せ

benkyo.nvk@gmail.com

※2日前までに、上記の宛先にメールで予約が必要です。

※事前テキストを協会のウェブサイトからダウンロードしてお持ちください。

10月27日（金）

ナラ・ナーラーヤナ 現地でのお食事配布など。

お問い合わせ：佐藤 090-6544-9304

10月28日（土） 13:30～17:00

関西地区講話

場所：大阪研修センター

内容：「バガヴァッド・ギーターとウパニシャドを学ぶ」

詳細は大阪勉強会ウェブサイトをご覧ください。

<http://vedanta.main.jp/index.html>

10月29日（日）

サットサンガ in 掛川

（日本ヨーガ禅道友会対象）

2017年6月の返子例会

聖ゴータマ・ブッダ（釈尊）生誕祝賀会

講話「お釈迦様の教え」

東京都府中市・浄土宗心行寺副住職

佐藤堅正師

（講話の要約：福田恵美さん。一部編集）

お釈迦様のお誕生日に、お釈迦様の教えのほんの一部分を、お伝えいたします。

東日本大震災の地震が起きたのが、6年前です。夜になって帰宅困難者が大量に出ました。その時テレビを見ていた私は、非常に違和感を覚えたのです。渋谷駅のまばゆいばかりの灯りの中で、大勢の人が行き場を失っている。ちょっと北では大惨事が起きているけど、この明るさは何なんだろう。

その後、福島原子力発電所の事故があり、計画停電、節電が行われました。この経験から私たちは、それ程電気を使わなくても済むということに気付きました。しかし、なぜ今、私達は元のように電気を使っているのだろう。

それでお釈迦様の教えを思い出しました。必要以上に求めたり欲したりするのは、煩悩、貪（むさぼ）りであり良くないことだからやめなさい、とさ

れている。しかし、貪りは長い間の習慣で私たちに染み付いてしまっていることが多いものですから、なかなか取り除くことができません。

お釈迦様の場合は悟りを得るために家出しました。家族も、王子という社会的地位も捨て、たったひとりで山の中へ入りました。すごい苦行もしましたが、得られるものが無い。そこで、苦楽の両極端を離れよ。真理の道に行くにはその中間に行くべきであるとして、中道をお説きになりました。つまり、私たちは家出しなくて良い、できる範囲でできることをすれば良いのです。

また、お釈迦様は、八正道は煩悩を取り除く方法だと説かれています。

八正道の第一番目の正見（しょうけん）は、正しい見解を持つことです。例えば、皆さんがご商売を始めるときには、さまざま条件を考慮せずにやみくもに始めると失敗します。

次の正思惟（しょうしゆい）は、考えるという意味です。私の友人で、自分で商売をやり成功している者がいますが、自分が売りたいものでなく向こうが欲しいものを持っていくそうです。貪欲を抑える見事な言葉です。

三番目の正語（しょうご）は、正しい言語行動です。嘘をつかない、人の悪口は言わない、慈しみに満ちた言葉を人に向ける、などです。

四番目は正業（しょうごう）です。殺さない。人を傷つけない。盗んじゃいけない。

五番目は正しい生活、正命（しょうみょう）です。例えばカジノは、お釈迦様の立場からすると、経済の活性化と貪りの心が裏腹なので良くないということになります。

次は正精進（しょうしょうじん）。何事も結局は努力が必要ですから、怠けずに努力しましょう。

そして正念（しょうねん）。忘れないこと。覚えているべきことはきちんと覚える。約束は守る。

最後は正定（しょうじょう）です。心を静める。精神統一は、難しいですが訓練でできるようになります。

以上が八正道です。

最後に、私たちは様々な所で大量の電気を使っているが、本当に必要なことに電気を使っているのだろうか。本当は、大地震でいろんなものがぐちゃぐちゃになったそのときに、私達の貪り

の心をどうするのか、私達はどう生きるか、その社会はどんなものかを考えなければならなかった。しかしあの時、貪りの心について言う人は誰もいませんでした。

貪りの心を少しずつ減らしていきたい。そのために極端なことはやめておきたい。中道です。生活の中でできることをやっていく。それをお釈迦様の教えとして頂戴いたしましょう。

2017年夏期戸外リトリートの報告 「奥琵琶湖と比叡山にて」 本田厚美さん寄稿（一部編集）

7月15日（土）から17日（月）まで奥琵琶湖マキノグランドパークホテル（滋賀県高島市）にて日本ヴェーダーンタ協会主催の夏期リトリートが行われました。参加者はマハーラージを含め男性13名、女性39名の計52名で、関東、関西、四国、九州から集まりました。そのうち初参加の方は過去最高の21名でした。



15日の午後2時に比叡山延暦寺（京都府・滋賀県）で集合し、本堂である根本中堂を中心とした東塔地区を3班に分かれてボランティア・ガイドさんの先導のもと拝観しました。荘厳さを感じる根本中堂の中の造りは独特で、ご本尊（薬師如来、秘仏）と、参拝者が拝観する板の間には、「祈りの谷間」と呼ばれる深さ3m、幅2mほどの細長い石敷きの土間があり、そこで僧侶たちが毎日読経や修法をなさいます。ご本尊と、谷間を隔てた私たちの視線は、ほぼ同じ高さだそうで、それは「生きとし生けるものはみな、同じ目線である」ということを示しているとガイドさんから伺いました。マハーラージはご本尊のほうに向かってプラナムをされました。

学問研鑽のためのお堂である「大講堂」では、マハーラージは三帰依（ブッダン シャラナン ガッチャーミー・・・）を4度、音程を変えてダイナミックに唱えられました。途中から参加者も一緒に唱えました。このときの三帰依はこれまで聞いた中で一番素晴らしいもので、これから始まるリトリートへの大いなる励ましをいただきました。

延暦寺は仏教の総合大学のような性格を持っており、多くの仏教の祖（法然、親鸞、日蓮、そして去年のリトリートの永平寺の祖である道元）を輩出

しました。このような学びの場からリトリートが始まったことをとてもうれしく思いました。



比叡山から宿泊先であるマキノグランドパークホテルまではバスと車で移動しました。ホテルに着くとすぐに夕方のアーラティがあり、そのあと夕食、サットサンガと続けました。サットサンガでは各自が自己紹介をしました。マハーラージからは、「もし、ヴェーダーンタの教えが少しでも皆さんの人生の支えとなっているなら、とてもうれしいことです。私はシュリー・ラーマクリシュナの道具として働いているだけで、本当はすべてシュリー・ラーマクリシュナがなさっていることだ、と理解して下さい。シュリー・ラーマ

クリシュナ以外に私の存在はありません」というお言葉と、「このリトリートのテーマは『気づき』です。皆さんのここでの最初の気づきは、『勉強をするためにこのリトリートに来た』ということにしませんか」というご提案をいただきました。



翌16日は早朝5時からの琵琶湖畔での瞑想で始まりました。柔らかに広がる湖面、正面の竹生島と大空に見守られながら、瞑想に入りました。瞑想のあとはホテルの大広間でヴェーダの祈りを唱え、『バガヴァッド・ギーター』第6章5節～30節の輪読をしました。マハーラージは「ギーターをただ読むのではなく、内容を理解することが大事です」とおっしゃいました。それからシャンティ・マントラを唱え、マハ

ーラージのキーボード演奏とともに「タートイヤ タートイヤ ナチェボラー」を歌いました。



7時から湖畔で講師、梅田亮子さんによるヨーガ・アーサナがありました。太陽の光をいっぱい浴びながら気持ちのいいひと時を過ごしました。



朝食につづき、マハーラージの講義が始まりました。今回の講義のテーマは「気づき、より高い生き方への気づきの実践」でした。そのテーマを覚えている参加者が少なく、マハーラージから檄(げき)が飛びました。マハーラージの愛情のこもった檄は、私たちの気持ちを引き締め、真摯に講義を聞きたいというムードが一気に高まりました。講義のあとはオフアリング、そして昼食のあと、さらに講義が続きました。



夕方には散歩に行きました。松林を抜けて知内（ちない）川沿いを歩いていくと、小高い丘がありました。そこで思い思いにお茶とお菓子をいただきながら休憩をしていると、マハーラージから「ここでも勉強をしましょう。何か質問はありますか？」とお声がかかりました。リトリートの初めに「『リトリートには勉強のために来た』ということをごでの最初の気づきにしてください」とおっしゃったことを言葉だけでなく、態度でも示してくださっているのだと感じました。

大きな木の下のかふかの草の上にマハーラージを囲んで座り、リラックスしたムードで勉強は始まりました。涼やかな風が吹き、木の葉が揺れて影が揺れ、セミが鳴いていました。その光景はまるで、古代のインドでグルが弟子に話を聞かせているウパニシャッドの世界のようでした。後にマハーラージはこのときの写真を見て「トゥリーヤーナンダジーのシャンティ・アシュラム（注）のようです」とおっしゃったそうです。



ホテルに戻るとおなかがペコペコで、美味しく夕食をいただきました。このホテルの食事は、滋賀県の醤油、味噌などを使った郷土に根付いたもので、滋養があり自然と体に溶け込みました。夜のサットサンガでは、参加者の一人である四国のお寺の尼僧が、「Amazing Grace」と、映画「ブラザーサンシスタームーン」（アッシジの聖フランチェスコの話）の主題歌を美しい声で歌ってくださいました。

その後全員が東西に分かれて歌を歌いました。西のチームは映画「トトロ」のテーマ曲「さんぽ」を賑やかな振り付けで明るく歌いました。練習の段階から盛り上がり、初対面の方とも打ち解けられました。東のチームは「上

を向いて歩こう」の歌詞をリトリートに合うように工夫され、みんなで手をつなぐなど調和を感じられる振り付けで美しく歌われました。とても和やかなひと時でした。



最終日の17日の早朝瞑想は4時45分から湖が見えるレストランで行われました。激しい雨が私たちを外界から遮り、内なる世界へと向かわせました。その後、ヴェーダの祈りを唱え、『ギター』の第2章11節～30節を読みました。仏陀の教え、バイブルなどの聖典も読み、最後に「アージェ シュボディネ」を手拍子も加えて歌うと、気分が高揚しました。その後、ヨーガ・アーサナを大広間で行いました。

朝食のあとに最後の講義が始まりました。リトリートの講義を通してマハーラージは「怠りなく厳密に自己分析し、自分自身に向き合うことがいかに大変か」、「しかしその実践により得られる『気づき』がどれくらい人生をサポートしてくれるか」ということを教えてくださいました。

昼食の後には質疑応答があり、講義の内容の理解がさらに深められました。ホテルのスタッフは少人数でしたが心を込めて接待してくださいました。そのお礼に、チーフの磯石さんに『立ち上がれ 目覚めよ』と『輪廻転生とカルマの法則』とCD「ガーヤットリー・マントラ」が贈呈されました。

時間をかけて準備をしてくださったボランティア・スタッフの皆様（特にシャンティ泉田さん、鈴木敦さん）、このリトリートに関わってくださったすべての方々、ありがとうございました。マハーラージ、マザー、タクール、すべての恩寵に感謝いたします。

(注) シャンティ・アシュラマ：スワミー・トゥリーヤーナンダがヴェーダーンタの教えを広めた北カリフォルニアの静かな地（協会の刊行書『神を求めて』第五章シャンティ・アシュラマ参照）

2017年夏期戸外リトリート スワミー・メーダサーナンダによる 講話

「価値ある人生のための自己の気づき と実践」

(本田厚美さん要約、一部編集)

- I. 内省 > II. 自己の気づき >
III. やる気 > IV. 実践 >
V. 変化

「自己の気づき」の目的は、私たちの人生をサポートすることです。もし私たちが毎日（少なくとも週に一度）実践をすると、それは私たちの人生の助けとなるでしょう。「自己の気づき」の最高の目的は、内なる自己の声を聞くこと、つまり、内で絶えず鳴っているクリシュナのフルートの音色を聞くということです。私たちが何か「価値ある考え」に気づき、その考えが私たちの意識の一部になったとき、それが本当の「気づき」です。

I. 内省

内省をせずに「気づき」は得られません。

1) 毎日、自分の生活習慣、例えば「態度、考え、自分がイメージすること、感情、そして人間関係」について、観察し、分析し、理解してください。

2) 人生の目的について考えてください。私たちの人生の目的は「サット・チット・アーナンダ（完全な存在、完全な意識、完全な至福）」を悟ることです。

3) 心の状態をチェックしてください。そうすると、どれだけたくさんエゴや怒りを持っているかが分かります。そして自分の弱さ、矛盾、無知に気づくでしょう。

II. 自己の気づき

「私たちは、本当は変わりたくない、治したくない、幸せや自由を望んでいない。なぜなら、それらを得るための実践はとても難しいから」、ということが最初の気づきです。このことをまず正視しましょう。

自己の気づきを得るためのヒントがあります。

- 1) 私たちの状態は、「半分は起きていて半分は眠っている状態」です。
- 2) 私たちは苦痛を取り除きたいだけで、治すことは望んでいません。
- 3) 私たちは他人を批判することは好きですが、批判されたくはないです。
- 4) 私たちの本当の友と敵は、自分自身の中にいます。

III. やる気

私たちの心と頭には、どれだけたくさん力があるのでしょうか。

- 1) 心は最大の困難ですが、また最良の支えでもあります。
- 2) すべての至福と真実は自分自身の中にあります。
- 3) 私たちは非実在を実在だと認識しています。
- 4) 私たちは必ず死にます。
- 5) 私たちは自分を「体と心」と同一視しているので、体、心、感覚、感情の奴隷です。
- 6) 私たちはサムスカーラ（過去の経験により心に残された印象）に囚われています。

IV. 実践

たくさんの不調和が私たちの中にあります。

- 1) 私たちには、瞑想や霊的な勉強の実践のための時間が絶対にあります。
- 2) 頭を肯定的な考えで満たすようにしてください。
- 3) 人としての人生は、特別でとても価値があります。
- 4) スケジュールを作ってください。(瞑想(内省)、勉強、体の運動を含む)
- 5) マインドフルネス=精神集中(この瞬間を生きる)
- 6) 神様の道具として働いてください。
- 7) 仕事の結果を神様に捧げてください。
- 8) 他の人のために祈り、手助けをしてください。
- 9) 他の人の良い部分を見てください。

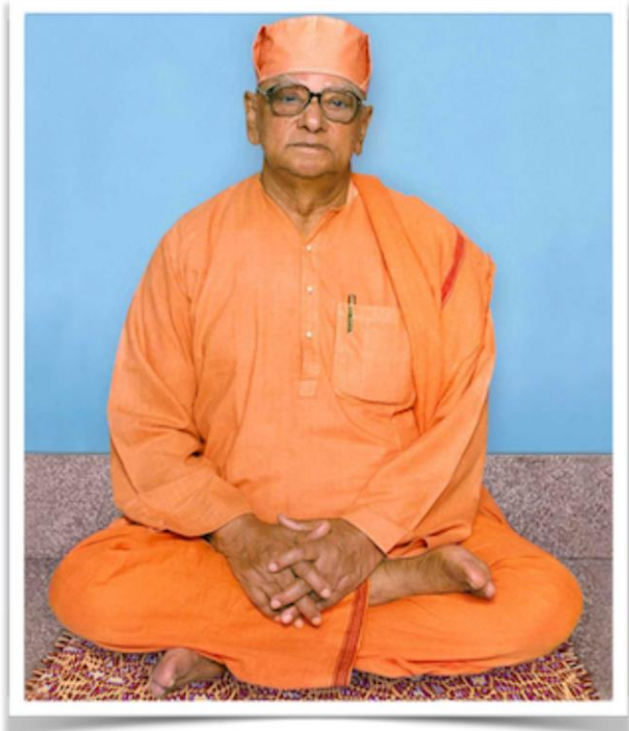
V. 変化

ハエではなく蜜蜂になるように。

- 1) 肯定的な考えと行動は生きること、否定的な考えと行動は死ぬことです。
- 2) 私たちは、精神的、肉体的、知的、そして霊的な健康のために、肯定的にならなければなりません。
- 3) それ以外の方法や選択肢はありません。
- 4) いつも肯定的で前向きでいてください。
- 5) 私たちはみんな、ヒツジではなくライオンです。

スワミー・アートマスターナンダジー、ご逝去

2017年6月18日(日)午後5時30分、ラーマクリシュナ・マトおよびラーマクリシュナ・ミッションのプレジデント、スワミー・アートマスターナンダ(Swami Atmasthananda)ジーが、コルカタのラーマクリシュナ・ミッション・セヴァ・プラティシュタン・ホスピタル(Seva Pratishthan Hospital)で逝去されました。98歳でした。心から哀悼の意を表すとともに謹んでお知らせ申し上げます。



アートマスターナンダジー・マハーラージは、1992年から5年間、マトとミッションのジェネラル・セクレタリーを務められた後、1997年にバイス・プレジデントに就任されました。そして2007年12月3日、ラーマクリシュナ・マトおよびラーマクリシュナ・ミッションのプレジデントに選出されました。

アートマスターナンダジー・マハーラージはインド国内の各地に赴かれ、ラーマクリシュナ・ミッションの支部や非公式のセンターを数多く訪問されました。1998年には、米国、カナダ、日本、シンガポールを訪れられました。また、マレーシア、フィジー、スリランカ、バングラディッシュもそれぞれ別の機会に訪問されています。これらの各地で、シュリー・ラーマクリシュナ、シュリー・サーラダー・デーヴィー、スワーミー・ヴィヴェーカーナン

ダ、ヴェーダーンタの教えの普及に尽力されました。また、多数の求道者にイニシエーションを行われ、マントラを授けられました。

アートマスターナンダジー・マハーラージは、カマルプクルとジャイラーンヴァーティーにおけるパッリマンガル（統合的農村開発）活動や、サラダピタ（Saradapitha。ベルルにある）の青年研修センターを始めとする様々な社会奉仕プログラムを組織した中心的人物のお一人でした。

スワーミー・スマラーナーナンダジー、第16代プレジデントに選出される

2017年7月17日、これまで10年にわたりバイス（副）・プレジデントを務められたスワーミー・スマラーナーナンダ（Swami Smaranananda）ジー・マハーラージが、ラーマクリシュナ・マト理事会（the Board of Trustees of the Ramakrishna Math）およびラーマクリシュナ・ミッション運営機関（the Governing Body of the Ramakrishna Mission）の会議においてラーマクリシュナ僧団（Ramakrishna Order。マトとミッションを合わせた総称）の第16代プレジデントに選出されました。



1952年、シュリー・ラーマクリシュナの誕生日という神聖な日に、スマーラーナーナンダジー・マハーラージは22才でブラフマチャーリ（見習僧）としてムンバイ・アーシュラム（Mumbai Ashrama）に入団されました。同年、ムンバイ・アーシュラムに来訪されたラーマクリシュナ僧団第7代プレジデントのスワーミー・シャンカラナンダ（Swami Shankarananda）ジー・マハーラージからイニシエーションを受けられました。1956年に同じくシャンカラナンダジー・マハーラージからブラフマチャーリの誓いを受け、1960年にサンニャーシー（出家僧）になりました。

スマーラーナーナンダジー・マハーラージは、当時のムンバイ・アーシュラムの長スワーミー・サムブッダーナンダ（Swami Sambuddhananda）ジーと共に、1954年に初めてベルル・マトを訪問されました。この時、ホーリー・マ

ザーの生誕100周年記念祝賀行事の閉会式と、ジャイラーンヴァーティーのホーリー・マザーズ・テンプル（Holy Mother's Temple）の献堂式に出席されました。1958年、アドヴァイタ・アシュラム（Advaita Ashrama）のコルカタ支部に異動されました。アドヴァイタ・アシュラムの主たる業務は出版で、スマーラーナーナンダジー・マハーラージは出版物の品質向上に尽力され、その活動は高く評価されました。

1976年、スマーラーナーナンダジー・マハーラージはベルル・マトの近くにある教育施設ラーマクリシュナ・ミッション・サラダピタにセクレタリー（書記）として赴任されました。約15年の長期にわたる在任期間中、サラダピタの教育事業・農村福祉事業は大きく進展しました。1978年の西ベンガルの大規模な洪水災害では、アシスタントの僧侶らと共に精力的に支援活動に取り組みられました。1991年12月にサラダピタからチェンナイに異動され当地のラーマクリシュナ・マトの長になりました。現在チェンナイ・マトにある堂々たる寺院シュリー・ラーマクリシュナ・テンプルは、スマーラーナーナンダジー・マハーラージの在任中に着工されました。

1983年には、ラーマクリシュナ・マト理事およびラーマクリシュナ・ミッション運営委員に選出されました。そ

して1995年4月、スマーラーナーナンダジー・マハーラージはベルル本部のアシスタント・セクレタリーになられ、その2年後にジェネラル・セクレタリーに就任されました。ジェネラル・セクレタリーとして10年間、世界のラーマクリシュナ運動を主導された後、2007年5月、バイス・プレジデントに選出されました。

ジェネラル・セクレタリーとバイス・プレジデントを務められている間、スマーラーナーナンダジー・マハーラージはインド国内と世界各地を広く旅され、マトとミッションの支部や非公式のセンターを数多く訪問されました。この訪問を通じて、シュリー・ラーマクリシュナ、シュリー・サーラダー・デーヴィー、スワーミー・ヴィヴェーカーナンダ、そしてヴェーダーンタの教えの普及に努められました。また、多数の求道者にイニシエーションを施され、ラーマクリシュナ僧団の様々な出版物に数多く寄稿されました。

忘れられない物語

絶対の知識の不在

昔々、木々が生い茂り花が咲き乱れる森があった。昼は鳥がさえずり夜は虫の音が響き、森には美しい音楽が満ちていた。あらゆる種類のいきものが森を歩き回り自由を謳歌していた。この

森に入る者すべてが、大自然の静けさと美しさに住まわれる神の我が家である「孤高」へと導かれた。

しかし、「無意識の時代」になり、人々は数百メートルもの高いビルを建てたり、1ヶ月で川や森や山を破壊したりできるようになった。そして、この森の木を切り出して作った木材と、この森の土の下から掘り起こした石で、礼拝のための家が建てられた。空に向かって伸びる尖塔を付けた礼拝の家が建ち並んだ。鐘の音や祈祷、人々を教え諭そうとする強い言葉があたりに充満した。

そして突然、神は家に住まわれなくなった。

神は、私たちの目の前に物を置き、それらを隠される！

聞け！耳を傾けよ。

鳥のさえずりに

木々をわたる風に

大海のうねりに。

見よ。木を

落ち行く葉を

花を。

初めて目にするかのように。

突如、触れるかもしれない。

絶対なる存在に

その樂園に。

私たちは
子供でなくなると
自身の知識によって
この楽園から閉め出される。

インドの神秘主義者サラハは言う。

「この味を知れ。
『絶対の知識の不在』という味を。」

(Anthony de Mello 神父著『The Prayer
of the Frog』 (カエルの祈り) より)

今月の思想

「考察されることのない人生は、生きる価値がない」
ソクラテス

発行：日本ヴェーダーンタ協会
249-0001 神奈川県逗子市久木 4-18-1
Tel: 046-873-0428
Fax: 046-873-0592
Website: <http://www.vedanta.jp>
Email: info@vedanta.jp